



2021年3月10日発行

社会福祉法人 龍鳳ライフパートナーこぶし
〒203-0004 東久留米市氷川台 2-31-19
TEL:042-470-2385 FAX:042-470-2386
清瀬事業所/ふわとん
〒204-0013 清瀬市上清戸 1-15-18
TEL&FAX:042-497-9481
<http://www.fukushiryuhoh.or.jp/kobushi/>

運動促進日に公園へ♪



一貫してなくても

自分自分

理事長 荻部 一夫

コロナ禍で心まで病んでしまう人が増えているそうです。職場を解雇され収入がゼロになり貯蓄も底をつき、その日食べる物もない状態に陥っている人が数万人にのぼると言われています。一刻も早くこうした人々への支援を届けることが強く求められています。

私たちが担う福祉サービスも、社会的弱者のセーフティネットの一つとして機能しているはずですが、コロナの影響でその脆弱さが顕在化してきています。先が見えない不安に駆られ、生きているだけで借金がかさみ、八方塞がり状態でも社会は助けてくれない。そんな思いの連続は、自身が存在する価値をも否定してしまいう心境になることは容易に想像できます。しかし、私が想像できることは本人からすればほんの一片のことで、本当の辛さは共有できるものではないでしょう。

もちろん何も力にはなれないことを承知ですが、最近読んだ本に心に留まったことがありましてので紹介いたします。脳科学者の中野信子氏は、著書「ペルソナ

脳に潜む闇」の中で、自身の「一貫性のない人格について、「わたしは存在しない」と言っています。読み進むとペルソナ（人格をつくっている脳）は、透明でいつでも変化に対応することができるといいます。換言すれば、一貫性がないことに嘆く必要はないと繰り返し書いています。

確かに人は、知らず知らず人格に「一貫

性」を持たせようとしています。過去の自己と現在の自分に一貫性があることで人格に自尊心が生まれるようになります。つまり安堵の気持ちで過ごすことができる状態です。それがコロナで今までの生活が一変したとき、夢が崩壊し、これまで思い描いてきたモノやコトが現実と乖離してしまい、それをきっかけに人格の崩壊の途を辿る事例もあるのかと思います。

しかし、中野氏は著書の中で人格は一貫していないということをもっと長い時間のもので論じています。「過去に存在した事実の集積で、人間はできている。」とし、現在から子ども時代までの自身の経験や環境を振り返るような構成になっています。「むしろ、脳は一貫していることの方がおかしいのだ。」置かれた環境により人格は絶えず変化し流動的であると述べています。

つまり、中野氏が言う「私は存在しない」とは、自分自身に一貫性を求めるのではなく、常に変化に柔軟に対応している自分をよしとする脳であることを勧めているのかもしれないと思います。

冒頭の問題は、もちろん現実的な支援金や食糧の緊急援助が急務です。ただ、コロナは、目に見えていること以外に、社会の至るところで人々の心を悩ませ苦しませている状況を生み出していることも事実です。そんな時代だからこそ、この本に書いてある自身を壊さない考え方が必要なのかもしれません。

赤い羽根共同募金

赤い羽根共同募金の助成を受けて、災害非常時の備えとしてカセットガスファンヒーターを購入しました。今後も非常時の対策に努めていきたいと思えます。

ありがとうございました。



車が納車されました

一般社団法人東京馬主協会様からの助成を受けて、福祉車両1台を購入しました。これから利用者支援の様々な場面で活用させていただきます。ありがとうございました。



キラリ☆と光るこの一枚



とても楽しみにしている調理活動
おいしいコロッケをパクリ♪ (吉井)



年末の年賀状作成！真剣な表情がとってもキラリな一枚です！ (鯛持)

特別な日

大晦日の話をします。去年の大晦日12月31日、私はこぶしで夜勤勤務でした。入職した時は想像できませんでしたが、こぶしで利用者さんと年を越すことになったのです。

大晦日ということで紅白や格闘技の番組を見ていると、普段はご自分の部屋にすぐに戻ってしまう利用者さんも輪の中に入り楽しそうにテレビを観ていました！音楽に合わせて体を揺らす方もいれば、格闘技を真剣な眼差しで見守る方まで、大晦日という普段とは違う特別感に私と一緒にワクワクされているようでした。さらに大晦日ということで、利用者さんご家族から頂いたみかんをみんなで召し上がりました！1人で食べるより美味しかったですね！普段より2時間ほど夜更かしをして特別な夜を仲良くみんなで過ごしました。普段あまりご自宅へ外泊されない方、コロナで今回の年末年始外泊できなかった方にとって特別な日に少しでもなったのではないかと笑顔を見て感じることができました！

今年度はコロナで行事がいくつか中止になってしまいましたが、3月に私も所属する余暇課主催で「こぶし運動会」を行います。利用者さんにとって楽しい「特別な日」になるよう盛り上げていきたいと思えます！

生活支援員 城間 直哉

日々の様子 ～豪華お弁当 他～



今年は新年会が中止となってしまいましたが、保護者会の皆様からお弁当を頂戴しました。
ありがとうございます。
豪華なお弁当を皆さんおいしそうに召し上がっていました☆



経験が教えてくれるもの

今から10年前の3月11日、東日本大震災が起こりました。

当時私は新宿にある企業で働いており、16時に渋谷でアポイントの為書類の準備をしているところでした。今まで感じたことのないような揺れのあと、瞬く間に室内中のキャビネットや机の引き出しが全開するほどの揺れに変わり、私の机の上にあった飲みかけのミルクティーの缶が床に転がり落ちました。床を拭かなければ・・・、と思ったのは一瞬で、すぐに皆と廊下に出ましたが、非常階段は人波で大変なことになっており、階下まで脱出するのに随分と掛かりました。ちなみにそこで初めてオフィスビルの見た目に比べて非常階段が老朽化していることに気づきました。大勢の人で非常階段が音を立ててきしんでいたのです。

外に出ると、2度目の地震で西新宿の高層ビル群が揃って揺れ動くのが見え、道路を埋め尽くしたビジネスマンの群れからどよめきがあがっていました。車は止まり、道路も歩道も右往左往する人々で一杯になり、電車も止まり新宿駅前は駅に入れない人で溢れていました。16時のアポイント相手には連絡も、もちろん移動もできませんでした。

オフィスに戻ると、何とか繋がったネットで大きな津波が東北を襲ったことがわかりました。自宅の遠い私たち数名はオフィスで一夜を過ごすことになり、食料調達にコンビニへ出ると、既に食料棚は空っぽでした。何件もコンビニを回って戻ると、普段挨拶ほどしか声を交わしたことのない隣の会社の方が「皆で過ごそうよ」と声をかけてくださり、お邪魔して食事や情報共有をさせてもらうことができました。深夜もネットで情報を収集しながら被害のひどさに驚愕し、余震におびえ、明け方復旧した電車に乗って自宅へ帰ることができました。比較的被害の少ない東京でしたが、今でも当時の恐ろしさを忘れることができません。そしてこの経験には得難いたくさんの教訓がありました。

この10年の間に様々な教訓が生かされ、整備が進んだり技術が進歩したりしましたが、一番大事なのはいい意味で「慣れないこと」だと思います。こぶしでもBCP（Business Continuity Plan）を策定し、有事の際の安全確保について備えており、避難訓練も欠かさず行っています。利用者さんを守る、職員を守る、そして組織を守り継続していくことができるように、コロナ禍も含め様々な経験を元に「最新の備え」にアップデートすべく、心新たに3月です。

清瀬事業所拠点長 大神田 千恵



一人暮らしと仕事

私が2020年4月からこぶしへ入社してまもなく一年が経過します。この一年は私にとって変化の年でした。というのも、社宅を借りて東久留米市に一人暮らしを始めたからです。初めての一人暮らしは分からないことだらけで公共料金の支払いや、ネットワーク接続など初めてのことばかりです。また、炊事洗濯の大変さを感じたと同時に親の存在の大きさに気付かされました。

私は仕事をしてお金を稼いで生活しています。世の中のサラリーマンが当たり前に行っていることを私がしています。「吃音」を持っている私が社会に出て仕事をするなんてありえないと思っていましたが現在、元気に働いています。これからも仕事を覚えていきながら自信をつけ日々精進していきたいと思えます。

生活支援員 小畑 満月